

第2回 これからの図書館を考える市民ワークショップ 実施報告

- 開催日時：令和5年12月9日（土） 10:00～12:00
- 開催場所：中公民館 4階401会議室
- 参加者：31名（うち司書1名）10代～80代（男性13名、女性18名）
- 傍聴者：2名
- 内容：～これからの図書館についてみんなで考えよう～
テーマ：「図書館でこんなことができたらいいな、こんなことをしてみたいな」
～先進事例に学んで考えよう～
 - 前回の振り返り
 - 先進事例紹介
テーマ：「市民とともに成長する図書館」
講師：是住久美子さん（田原市中央図書館 館長）
 - グループワーク（図書館井戸端会議）
これからの図書館を思い描こう（中央図書館・分館）
- 図書館再編アドバイザー：常世田 良氏（舞鶴市図書館協議会副会長）
- ファシリテーター：谷口 知弘氏（福知山公立大学 地域経営学部 教授）
- 田原市中央図書館（先進事例）のお話を聞いて
【参加者からの質問及び回答】
※回答は、田原市是住館長より。時間の関係上、回答できたもののみ記載。

Q.移動図書館は子どものためだけか？足の悪い高齢者や図書館まで行けない方は対象としていないのか？

A.学校には一般の方も来てくれる。他市で襲撃事件があったから学校に入るのが難しくなっている。こういう場所に来ることができない人のために、高齢者福祉施設には団体貸し出しを行っている。運転手に消防のOBなどに活躍いただいている。

Q.分館の職員をどう配置されているか？司書はいるのか？

A.正職員と会計年度任用職員の全員に司書資格あり。以前は、司書資格を取得させてから図書館に異動させるということもしていた。

Q.学校との協力体制について学びたい。

A.学校との連携が大切。年に2回、司書担当の先生と学校司書・図書館司書とが集まって研修会を実施している。また、毎月、学校司書と図書館司書で司書会を実施している。

Q.田原市中央図書館には公民館機能があるのか？複合施設？位置づけは？

A.文化会館と一緒なので、公民館機能があるわけではない。ホール、体育館、会議室、フリースペースがある。

Q.分館の活用状況、利用状態は？

A.分館でも、おはなし会など活発的にいろんな事業を実施している。

Q.情報発信の方法は？頻度は？

A.ホームページ、ツイッター、Facebook などゆるい感じでやっている。

Q.学校の司書はどこにいるのか。学校？市役所？図書館？総勢で何人？

A.学校教育課の所属になるが、採用時の面接は館長も一緒に行っている。学校教育主任とは頻繁にやり取りしている。

Q.市民はどんな質問をしに来る？

A.地域に関することや時刻表のことなど、司書に聞けば何でも答えてくれると思われるので、いろいろなお尋ねがある。

Q.田原市図書館の成長は館長のリーダーシップがよかったのでは？

A.ありがとうございます。招聘されてきたが、私が約6年前に来た時にはもう出来上がっていた。歴代の館長のやる気と、それぞれの職員が自立して主体的に動いてやっているのが良かったのではないかと。最後の責任は館長がとるが、自由にやらせてもらっている。継続してやることは難しくても、とりあえず一回やってみようと思ってもらえることが多い。

Q.学校図書のおかげで子どもも参加しやすいのでは？

A.子どもさんもたくさん来てくれている。職員が仰々しく固かったが、いつ来ても楽しい図書館にしたい思いでやっていると、たくさん来てくれるようになった。

Q.活躍する市民を紹介するコーナーは、インタビュー、記事は誰が行っている？司書なのかボランティアなのか？

A.職員がやっている。

Q.地域の人の意識が高いのはなぜか？

A.田原市は農業の盛んなまちで、体が衰えるまで農業をされる方が多い。ボランティアをしている人は遊んでいるみたいに思われることがある。決してそんなことはないが、皆さん意識が高く取り組んでいただいている。

Q.ボランティアの募集方法は？自分から来られる？

A.ボランティア組織「おおきなかぶ」用のボードがあり、そこにいろんなチラシを貼られている。そこに、ボランティアの問い合わせ先を記載している。高齢化してきていることが課題。

Q.田原の図書館は地元の本屋さんから買っているのか？（地域経済振興のために）

A.地元で買っている。

【講演を聞いての参加者の気づき】

- ・人と触れ合う場とその機会の提供
- ・何か取り組みをしたいのに、舞鶴は制約が厳しい（読み聞かせ、会議など）
- ・郷土資料を保存する大切さ
- ・舞鶴でも古い本もすぐ捨てず置いてほしい
- ・本を寄贈することで役に立てる取り組みが良い
- ・出店、起業した人に飲食スペースの提供

- ・コミュニティスペースは重要
- ・市民の意見を気軽に出せるパブリックコメントスペースは重要
- ・分館という場所にもサードプレイスが重要。ふらっと立ち寄れる
- ・「サードプレイス」とびきり居心地の良い場所がキーワード、ほかの事例も知りたい
- ・役所ができにくいことをカバー
- ・移動図書館が魅力的
- ・小学生一人ずつカードを作るのが良い
- ・町の規模、ロケーション（田舎、港）が舞鶴に似ている
- ・すぐ和製英語や略称使いすぎ
- ・まなびあむ 旧市民病院
- ・フリースペース イベント 展示 出店
- ・20年、30年先にリノベーション可能か
- ・電動車いすで自立
- ・一般の方の趣味の発表の場に
- ・地域のつながりの場になって欲しい
- ・図書館主催の議員と語り合う場は気軽に参加できそう
- ・高校の活動の紹介の場となるのは良いと思う
- ・市民がとりあえず来るきっかけとなる仕組みづくり
- ・求める機能は図書館ではない！
- ・居場所が必要
- ・各所の取り組みをアピールする場に
- ・闘病記の本を検索できたらいいな
- ・リサイクルは良い方法 舞鶴でも取り入れて欲しい
- ・自分の経験を語り合える場であって欲しい
- ・ボランティアをやりたい人を図書館がマネジメント
- ・ママさんの新しい働き方、文化的スキルなどその力を使ってもらう場所、プラットフォームに
- ・図書館でも行ける可能性が広がった
- ・図書館がまちづくりの真ん中になっている
- ・高齢人材の記録を残す話は舞鶴でも
- ・市民主体がいいなと思う
- ・情報弱者へ支援
- ・少子高齢化先々使ってもらえる
- ・田原町図書館がアクティブ 発信力がある
- ・いつ来ても楽しい図書館、いつ行っても楽しい図書館を作ること、誰でも楽しくなる図書館であって欲しい
- ・司書採用について全国リクルートを、専門家を引き抜く
- ・市民が話し合う場、市民参加型の市政に
- ・自分の力を発揮し、地域の循環に

➤ グループワークで出た意見（これからの舞鶴の図書館を思い描こう）

	中央図書館	分館	共通
施設	<ul style="list-style-type: none"> ・若い子たちが集まれる場所 ・市民が意見交換できる場所 ・西駅に近いので学生が集まりやすいスペースがあるとよい ・舞鶴LOVE発信基地 ・子どもが一人でも訪れること 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の子どもが過ごせる場 ・東にはコミュニティの場所がない ・まなびあむ、商工センターいろいろある ・まなびあむを名の通り学ぶ場所 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもが楽しめる ・自由に使える場所 ・居場所になる ・働く人が集まり話し合える ・いろんな種類の椅子、机が

	<p>のできる安心安全の場所</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな人とつながれる場所 ・ボランティア同士がつながれる場所 ・ゆっくりくつろぐことができるサードスペース ・飲食スペースがあって長居ができる ・新しいこと、新しい人に出会える場所 ・音楽室、ダンス室 ・飲食を希望する人、これから店を持ちたい人がオープンできるなどキッチンスペースのあるフリースペースを作る ・舞鶴市内の様々な歴史的な背景を学べるスペース ・コワーキングスペース（時間や場所足りない） ・若者に好まれるスタバ、ツタヤ、徳山図書館のような ・飲食ができるスペース ・コミュニティスペースではなく、人が来たくなる場所を創出、複合施設 ・舞鶴について話せる場所 ・誰でも行きやすい図書館に ・複合的な施設にした方が集まりやすい ・おはなしの部屋（ストーリーテリングができる）が欲しい ・今は無駄と思っても将来は有用な空間になるかも、できるだけ無駄をしよう 	<p>に</p> <ul style="list-style-type: none"> ・居場所の役割のスペースが欲しい、声を出せるスペース ・きめ細やかな情報提供と交流スペースの提供 ・学生の学べる場所 ・図書検索コーナー ・サードプレイスの場になるよう ・まちづくりの場となる図書館（田原市の話聞いて） ・いろいろな意味で風通しの良い図書館 	<p>ある</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コンサートもできる場に ・ワクワクする楽しい場に ・東図書館、南公民館、建物の保全、蔵書スペースの充実 ・1日楽しめる図書館 ・ゆっくり飲食できるスペース
資料	<ul style="list-style-type: none"> ・図書費を増やす、予算をとる ・引揚記念館とタイアップして戦争遺物、引揚の図書の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・もっと本を増やす ・活性化（本） 	<ul style="list-style-type: none"> ・いらなくなった漫画の寄贈（リサイクルの観点からも良い）
人		<ul style="list-style-type: none"> ・活性化（司書） 	
サービス	<ul style="list-style-type: none"> ・検索機の使い方講習 ・検索システムの向上（使いやすいシステムに改善） 	<ul style="list-style-type: none"> ・読み聞かせ ・予約・返却ができる ・PC 使える 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域のことを学べるコーナー ・催し案内、人気の本、特集

	<ul style="list-style-type: none"> ・郷土資料の展示 ・図書館のバックヤードを案内 ・闘病記文庫を作って欲しい ・ビジネス支援就農相談会、産業講習会 ・新刊紹介のコーナー ・翻訳機があれば利用者が増えると思う ・小・中・高・高専生などの作品を展示するスペース ・「知」(国々、歴史、地元愛)学び講習会 ・企業の情報発信 ・市民参加のコミュニティイベント ・市民が通信しあえる場、ボードに質問や思いを書いて誰でも返事ができる ・個人の情報発信 ・展示スペース ・学校、施設へ移動図書館巡回 ・子ども食堂 ・広域サービス(大浦や加佐などへ) ・人が集まる場所、イベントに図書館が入っていく ・BMの充実 ・東西間無料バスの運行 ・幼児・児童向けビジュアル化したコーナーの設置 ・地元の企業や団体が宣伝できる展示スペースはよい ・幼児・児童向けビジュアル化したコーナーの設置 ・秋に図書館まつりをやってる ・地元の企業や団体が宣伝できる展示スペースはよい 	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児・小学生が本を好きになるイベントの実施 	<ul style="list-style-type: none"> の本、最近の様子などをラインやメールで発信 ・既に市内を走っている高齢者施設のバス、スクールバス、塾のバスなど移動ミニ図書館バスに(CO2削減、返却請負バス探す) ・SNSの活用 ・図書館からの発信 ・閉館時間を早くても19時に ・全資料が検索活用できる ・中高生の進路に向けて、高校大学案内コーナーがあると学生も立ち寄るのでは ・府立図書館、国会図書館とのアクセス方法を教えてもらえる図書館
<p>市民活動</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアと協力して古本(除籍本、寄贈本)を販売、リサイクル ・市民と話し合っって催し 		<ul style="list-style-type: none"> ・なんでもやってみようという気持ち大切 ・図書館で自然といろんなボランティアができる雰囲気

	<ul style="list-style-type: none"> ・読み聞かせボランティアの育成 ・市民のおすすめ図書 ・ボランティアとして協力できることをしたい ・自分たちで自分たちの街をよくしていく活動の中心となる（ボランティアなど） ・市民とともに成長できる図書館 		気
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・読んだ本の感想文などを書く ・情報交換 ・今まで知らなかった趣味の世界、やってみようと思ってなかったことに出会える ・中央図書館の反対語は地域図書館。分館の反対語は本館。中央図書館は地域図書館をバックアップするから中央図書館。地域にある本館が地域館。中分館を中図書館にしよう ・地域社会を元気づけるための貢献 ・人との触れ合いの場の提供 ・ワークショップ非常にいい！これからも「かぶ」会議 ・バスなどまだある方（京丹後と比較） ・総合的な力ある ・各所での取り組みがつながっていない、情報を共有できていない ・東西の力が分散 ・地価を上げる ・コミュニティとしてはまあまあ ・一本化に賛成 ・自分の特技を活かせる、人の役に立てるところ ・ワークショップを中総で実施している ・北部 4 市で〇〇が一番とPRできる ・全部 2 つある 	<ul style="list-style-type: none"> ・専門性より普段使いできるのがよい ・そもそも分館というネーミングが ・一人一人の意見を吸い上げてくる ・まち歩きスタート地点が図書館 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活の中でいつも身近に感じられる存在

	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史の学べる場所、市内の各施設から出張 ・使われていないスペース、資料 ・困った時は図書館へ行く、そんな存在に ・まなびあむを学ぶ場所に、図書館は？ ・多機能なハイスペックを一つに集約 ・「ものづくりより人づくり」そんな中央図書館に ・「町づくりのかなめ」情報と場所、知識 		
--	---	--	--

<ワークショップの様子>



<意見シート>

